明日を語ろう!

北の農業人

KITANO NOUGYOUBITO

北海道農業に限りない愛情を注ぎ、
たゆまぬ努力を続ける人々がいます。
農業の未来を創造する「北の農業人」の
情熱や取り組みをご紹介します。

●ハウス栽培による全雄品種のアスパラガス生産

大学での学びや経験を生かし、新たな作物栽培に挑みながら省力化と高収益化の両立をめざす。

［岩見沢市］
青空ファーム池田
藤原瑞貴さん
麻未さん

●瑞貴さんと麻未さんは、ともに酪農学園大学の出身。学生時代は「農場生態学」のゼミに所属し、園田高広教授のもとで、アスパラガスの新品種の育成や定植方法の開発などの研究に取り組みました。

大学での研究を経てアスパラガスの栽培へ

石狩川とその支流がもたらす豊富な水と、肥沃な土壌に恵まれた岩見沢市北村砂浜地区。そこで3代続く農家の若き担い手である藤原瑞貴さん、麻未さん夫婦は、岩見沢周辺では珍しいアスパラガスのハウス栽培に取り組んでいます。昨年からはインターネットの通販サイトを通し、全量を全国の消費者に向けて直接発送。購入した人からは「太いのにとても柔らかい」「甘みが強い」という声が寄せられ、着実にリピーターを増やしています。

北海道の特産であるアスパラガス栽培に情熱を傾ける瑞貴さんですが、実は出身は大阪府。酪農や農業への関心から酪農学園大学に進学し、アスパラガス研究者として知られる園田高広教授のもとで病理や栽培、育種などを幅広く学ぶうち、「アスパラガスの持つ魅力に大きな将来性を感じるようになった」と振り返ります。当時、大学の同級生だった麻未さんと交際していた瑞貴さんは、麻未さんの実家の農家を継承し、アスパラガスのハウス栽培を始めることを決意しました。

「アスパラガス栽培なら夫婦2人でもできること、通販サイトなどを活用すれば栽培から販売まで一貫してできることなど、少ない人手でも高収益を確保できることに強みを感じました。そのほかにも、北海道のアスパラガスは露地栽培が主流なのですが、ハウス栽培にすることでほかの生産者よりも早く、人気の高い道産アスパラガスを本州の消費者に向けて販売することができると考えました」

瑞貴さんは大学を卒業後、社会経験を積むため農業関連の企業に就職し、農業資材や営農に関する知識を身に付けていきました。同時に、麻未さんと共にアスパラガス栽培の準備を進め、2021年から満を持して農業に専念しました。

最適な品種の選択とデータに基づく栽培管理

藤原さん夫婦は「ゼンユウガリバー」という雄株のみの品種を栽培しています。園田教授のアドバイスを受けて導入したもので、種子ができないため種がこぼれて雑草化することがなく、農作業を軽減できるのが大きな特長です。また、雄株は雌株と比べ、太さや穂先の締まりに欠けるとされていますが、ゼンユウガリバーは茎径が太く、安定した品質になるように改良されています。家族で農業を維持したい、と考えていた藤原さん夫婦にとって理想的な品種でした。

アスパラガスのハウス栽培では、室温や土壌の水分量などの適切な管理が重要になります。詳細なデータを把握し、それに基づいて行う栽培管理方法についても、園田教授の手厚いサポートがありました。「私たちのアスパラガス栽培は、園田先生との共同研究としてさまざまなデータを計測することから始まりました。最適な管理条件がわかり、安定的に生産できるようになった今でも先生は定期的に来てくれています。不安や疑問があればすぐに頼ることができ、とても心強く感じています」と、2人は園田教授に全幅の信頼を寄せます。

現在は秋に土壌分析と施肥設計を行い、春に再度、土壌分析を行った上で使用する肥料の種類や量を決めています。さらに、「安心して口にしてもらえるものを作りたい」という思いから、堆肥を入れて丹念に土づくりを行い、有機栽培で使用が認められている農薬を使うなど、質を高める努力も続けています。

あらためて知る農業の魅力 新たな挑戦も視野に

現在、青空ファーム池田では、アスパラガス以外に、水稲15ヘクタール、麦15ヘクタール、大豆10ヘクタールを栽培しています。瑞貴さんが加わったことで、以前よりも農地は増えましたが、積極的に規模の拡大を図るより、家族4人で無理なく経営できることのほうが大切だと2人は言います。

「親が続けてきた農業に加えて、新しいことにも挑戦しています。作業効率や収益性を高めることで、家族経営を維持していくことが理想です」と、話す麻未さん。瑞貴さんも「今は試験的にニンニクを栽培しています。ニンニクは競合する農家が少なく、反収も高い。現在の体系にも合っているので、試験栽培がうまくいけば2ヘクタール程度に増やしたい」と今後の構想を語ります。

非農家出身の瑞貴さんと、幼い頃から両親や祖父母が農業をする姿を見てきた麻未さん。生まれ育った環境は異なりますが、2人とも農業に明るい未来を見出しています。「一生懸命努力すれば、その分自分に返ってくる。そこが農業の魅力だと考えています」

農業への考え方や将来像が一致している藤原さん夫婦。収益性の高い作物の栽培に取り組み、家族で営農を続けていくというビジョンに向かって、2人はこれからも助け合いながら歩んでいきます。

●ハウスは加温せず、フィルムを二重にすることで温度調整を行っています。データに基づく土づくりや圃場管理を徹底することで、味の良いアスパラガスを育てることをめざしています。

●栽培品種の「ゼンユウガリバー」は、雄株ながら茎径が太く、収穫本数も多いのが特長。食べた人からは「みずみずしくてやわらかい」と好評を得ています。

●朝4時から収穫したアスパラガスは、すぐに箱詰めされて、全国へと発送されていきます。今後は自社のWebサイトを開設し、直接販売できる体制を築くことも目標です。

●アスパラガスの増産に向けて準備中のハウス。現在、アスパラガスを栽培・収穫しているハウスは4棟ですが、少しずつ棟数を増やしていく予定です。

●アスパラガスの収穫が終わる5月以降は、水稲や畑作の作業が急ピッチで進みます。